

平成31(令和元)年度 自己評価表

中長期目標 (学校5年)		今年度の重点目標		1. 学力の向上 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と進路実現 4. 学校業務改善への取り組み	
評価項目	現状	本年度当初	目標(本年度目指す値)	目標達成のための方策	各分野の具体的な取組(中間評価)
1 学 力 の 向 上	<p>【授業改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研修会を実施(学力向上研修2回、タブレット端末活用研修1回、職員研修活用度は26%)</li> <li>「一人一公認授業」を実施(実施率91%)</li> <li>職員への周知をはじめ、延べ26名が他校のAL公開授業に参加(一昨年度17名)</li> <li>タブレット端末を活用した教員の割合は76.7%</li> <li>授業アンケートを各科で実施し、改善策を協議</li> <li>学校評価アンケートにおける生徒の授業満足度は、78.7%(一昨年度74.7%)</li> </ul> <p>【学力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進研模試における理数工学科の5教科目標未達成</li> <li>基礎力診断テスト(12月実施)における基礎力不足層(Dゾーン)の生徒数が、工業学科1・2年とも半数以上</li> <li>放課後の進学補習を計画的に実施</li> <li>基礎力定着に向け、各科で放課後補習や個別指導を適宜実施</li> </ul> <p>【学習環境の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「5・5・あさひ」の実践に努めるが、良い学習環境を維持できている教室とできていない教室がある。</li> </ul>	<p>【授業改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主体的・対話的で深い学びを実践する職員数の増加</li> <li>ICTを活用した授業づくり(タブレット端末を活用した教員の割合が90%以上)</li> <li>90%以上の生徒が授業に満足し発言する授業づくり</li> </ul> <p>【学力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進研模試において、3年生5教科5546以上の生徒が10名以上(理数工学科)</li> <li>基礎力診断テストにおける、Dゾーンの生徒の減少(全体40%以下)</li> <li>専門教育に対応する数学力の定着</li> </ul> <p>【学習環境の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>整理・整頓・清掃・清掃ができる生徒</li> <li>生徒自身による、落ちついた学習環境づくり</li> </ul>	<p>【授業改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上研修会を年2回実施し、「主体的・対話的で深い学び」の実践につなげる</li> <li>ICTを活用した授業公開を進めるとともに、校内で他者の授業を観覧し、授業改善を図る</li> <li>「アライアラー」(授業研究のための動画)の研修会を開き、活用を推進する</li> <li>授業アンケート及び評価結果に基づき授業改善を実施</li> </ul> <p>【学力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進学および基礎学力向上・定着のための補習の実施</li> <li>低学力の生徒に対する個別面談及び補習の実施</li> </ul> <p>【学習環境の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「5・5・あさひ」の取組による、教室整備と授業規律の確立</li> <li>「5・5・あさひ」の取組による、教室整備と授業規律の確立</li> </ul>	経過・達成状況	評価
2 主 体 的 な 学 習 意 欲 の 向 上	<p>【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自宅学習時間は理数工学科が増加、工業学科は減少(理数工学科：198.5分/日 工業科：82.5分/日)</li> <li>自宅学習時間調査に併せてIT機器等利用時間を調査、IT機器利用が平均9分増加、TV視聴時間は減少</li> <li>【IT機器活用】</li> <li>授業時間終了後の様子を確認している。</li> <li>各科で課題を適宜提示し、学習意欲を喚起</li> <li>理数工学科ではオンライン手帳を活用し、自己管理の徹底</li> <li>各科目・各教科における資格・検定の受験を奨励</li> <li>年度当初及び学期初めに担任による面談を実施し、生徒の現状や進路希望を把握</li> </ul>	<p>【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自宅学習時間の確保(目標とする学習時間：理数工学科200分、工業科90分)</li> <li>IT機器の活用、場外での学習や動画・教材共有による生徒</li> <li>課題管理、課題提出、他の使用状況など、自己管理能力の把握</li> <li>興味・関心を持ち、進路意識を向上させ、主体的に学習に取り組むことのできる生徒</li> </ul>	<p>【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自宅学習時間の結果に基づいた各生徒への意欲喚起</li> <li>継続した各科目の課題の適宜提示等による、学習意欲の喚起及び向上</li> <li>引継ぎ、各科目・各教科における資格・検定の受験の奨励、受験意欲の喚起</li> <li>引継ぎ、授業時間終了後の様子を確認している。</li> <li>「5・5・あさひ」の取組</li> <li>進路意識の喚起による生徒の学習生活の充実と学習状況の把握</li> </ul>		
3 豊 か な 人 間 性 の 育 成	<p>【人権教育・性教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>性に関する指導を全学年で実施、他者の人権を尊重する態度の育成に課題</li> <li>特別支援を必要とする生徒の増加、支援方法に課題</li> </ul> <p>【ハイバ-Q.U.、いじめアンケート等の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>職員研修で全職員に生徒の現状を周知、クラス目標を設定</li> <li>クラスづくり、LHR・部活動等に結果を活用するも、生徒自身の自己理解に課題</li> <li>いじめ問題に早期に対応、各教科でも人権教育を推進</li> <li>悩みを抱えている生徒が存在し、生徒が相談しやすい体制を整備することが必要</li> </ul> <p>【指導力向上の職員研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>職員が人権教育に関する校外研修「一人一研修」にむけての情報提供が不十分で、かつLHR等への研修成果の還元課題(一人一研修は4割が参加)</li> <li>研修成果は速やかに実施</li> </ul>	<p>【人権教育・性教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>性に関する指導を徹底し、他者の人権を尊重できること</li> <li>生徒の実態に合った支援方法により、特別支援を要する生徒が安心して生活できること</li> </ul> <p>【ハイバ-Q.U.、いじめアンケート等の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己理解が促されて、集団規律が守れること</li> <li>いじめが無く、学校生活を安心して送れること</li> <li>悩みが相談しやすい雰囲気や体制の確立</li> <li>学校がみんなと思えること</li> </ul> <p>【指導力向上の職員研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>職員の自主的な研修として「一人一研修」の参加率8割以上にすること</li> <li>研修成果を教材やLHR等に還元</li> </ul>	<p>【人権教育・性教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人権教育LHR・性教育LHRの実施</li> <li>特別支援計画を早期策定し、その支援に特別支援教育支援員を活用する</li> </ul> <p>【ハイバ-Q.U.、いじめアンケート等の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1・2年生2回、3年生1回のハイバ-Q.U.を実施し、その課題の解決や活用についての職員研修を行う</li> <li>いじめアンケート、生徒会伝言BOX、相談室等を通じて、生徒の抱える悩み等を把握する、関係者との連携を共有</li> <li>外部関係機関との連携</li> </ul> <p>【指導力向上の職員研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研修会や協議会の情報を発信し、研修会への参加を促進</li> <li>事前学習など人権教育LHRの指導者の協議</li> </ul>		
4 基 本 的 生 活 習 慣 の 確 立	<p>【基本的生活習慣の確立】【基本的生活習慣の確立】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「5・5・あさひ」の考えを生徒、職員に浸透したが、主体的な取り組みに課題</li> <li>地域や企業向けに、自分から挨拶ができる生徒の割合は低く</li> <li>学校は落ちついてきているもの、ルール・マナーを守る規範意識の更なる向上に課題</li> <li>施設検査で不適合となる生徒が全校を平均して23人</li> <li>正しい朝服の着こなしが徹底</li> </ul> <p>【ボランティア活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活動が活性化して、その定例の継承が必要(平成30年度実績：60名)</li> </ul> <p>【部活動、生徒会活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会役員は校内行事に参加しているが、各クラス役員が半数に留まっている</li> <li>平成30年度活動実績：中国大会出場者数109人(平成29年度約35人増)</li> </ul> <p>【環境改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>TEA S活動の5%の実業物の削減目標に対し4.6%削減(若干クリアできなかった)、また電力消費量の3%削減目標に対し、0.6%削減(クリアできなかった)、現状に合った目標を設定し、活動を継続</li> </ul> <p>【安全教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度、登下校時の自転車による事故が5件あり交通ルール・マナーの遵守に課題</li> <li>SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)等の適切な利用に課題</li> <li>携帯電話とスマートフォンの校地内での使用禁止は厳格な取組</li> </ul>	<p>【基本的生活習慣の確立】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「5・5・あさひ」の主体的な取り組みの推進</li> <li>いじめやいじめ防止に関する活動が実施される生徒8割以上</li> <li>規範意識や社会で通用する行動や考え方を身に付けた生徒の増加</li> <li>施設検査の不適合者の半減</li> <li>正しい朝服の着こなしの定着</li> </ul> <p>【ボランティア活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア活動の参加者がH30年比10%増加</li> </ul> <p>【部活動、生徒会活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各クラス役員と生徒会活動が活性化</li> <li>部活動において、平成30年度の中国大会出場者数と同率(全校生徒に対し)104人を維持</li> </ul> <p>【環境改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実業物は2016年度比5%減、電力消費は2016年度比1%減</li> </ul> <p>【安全教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交通ルールやマナー等社会生活に必要な正しい行動の習得</li> <li>登下校時の無事故達成</li> <li>規範意識の向上とルール・マナーの実践力の向上</li> </ul>	<p>【基本的生活習慣の確立】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「5・5・あさひ」の継続</li> <li>生徒・職員によるいじめ防止運動の推進</li> <li>自己防衛訓練、施設検査</li> <li>施設検査の不適合者の半減</li> <li>規範意識の早期発見・早期対応の取り組み実施</li> </ul> <p>【ボランティア活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア活動の広報を強化し奨励</li> </ul> <p>【部活動、生徒会活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各クラスの役員、生徒会役員は体育祭や文化祭、球技大会の運営への積極的参加</li> <li>部活動における外部指導者、部活動指導員の確保</li> </ul> <p>【環境改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境改善、環境LHR、環境調査会等による教職員、生徒への啓発</li> </ul> <p>【安全教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全職員による朝の交通安全の徹底</li> <li>各種安全教育の実施(携帯マナー講習、自転車安全、防犯防止、実物利用防止教室等)</li> </ul>		
5 専 門 的 な 知 識 技 術 の 習 得	<p>【人材育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資格・検定試験の受験率が目標達成不十分</li> <li>学校全体(402/470：85.5%) ※受験者数/在籍者数</li> <li>1学年(149/149：100%)、2学年(139/165：84.2%)、3学年(115/156：73.7%、3年間139/156：89.1%)</li> <li>資格・検定試験の合格率が目標達成不十分</li> <li>学校全体(257/470：54.7%) ※合格者数/在籍者数</li> <li>1学年(115/149：77.2%)、2学年(72/165：43.6%)、3学年(70/156：44.9%、3年間132/156：84.6%)</li> <li>企業見学やインターンシップなどの対外的な行事は目標達成</li> </ul>	<p>【人材育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度末までに、一人一資格・検定試験以上にチャレンジ</li> <li>年度末までに、一人一資格・検定に合格</li> <li>勤労観や職業観の定着</li> </ul>	<p>【人材育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資格・検定取得が就職・進学に大きなプラスになることを認識させ、資格・検定の受験の促進</li> <li>技能検定、高校生のものがコンテスト大会への参加の資格取得の継続</li> <li>資格・検定への適切な進路指導</li> <li>資格取得実績が効果的な学習計画の立案・指導・支援の実施</li> </ul>		
6 職 業 意 識 の 育 成	<p>【職業意識の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インターンシップ、アルバイト就業事業、企業見学、応募前職場見学、社会人講師による授業等を実施</li> <li>3年生就職希望者は「フローワーク」主催の就職セミナーおよび本校独自の社会人基礎教育講座に全員が参加</li> <li>資格取得を奨励</li> </ul> <p>【進路指導の徹底】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5月3年生進路説明会、10月1・2年生分科別進路ガイダンスは保護者にも案内し実施(16名参加)</li> <li>7月の保護者説明会、フローワーク主催のジョブカークーを以て就職相談会を開催(14名参加)</li> <li>昼休みに「企業・学校説明会」を計2回実施し、企業等15社、事業所3、学校等5校来校し、生徒が直接企業や学校と話をする機会を設定(昨年比+8回増)</li> <li>昨年6月が行われた10人面接は本年度は少し早めの5月から実施したが、3年生の動きは遅く、7月になって動き出す生徒が多数</li> <li>進学補習を計画し実施</li> <li>2年生の個別進路相談は3学期実施</li> <li>基礎力診断テストにおける基礎力不足層(Dゾーン)の生徒については、学年、教科担任と連携し指導した。</li> <li>1回目の就職試験合格者90%未達成(89%)</li> <li>国公立大学合格者過半数も合わせて10名未達成(6名)</li> </ul>	<p>【職業意識の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域や企業と連携した活動及び校内の進路行事等を通じ、職業観、勤労意識の育成、定着</li> <li>専門的な知識や技術・技能の定着</li> </ul> <p>【進路指導の徹底】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育の視点に立ち、進路目標の早い段階での確立</li> <li>10人面接により、礼儀、作法を身につけるとともにコミュニケーション能力を高めて受験</li> <li>一回目の就職試験合格者90%以上</li> <li>工業学科も含め複数人制採用を活用し、過半数を国公立大学に10名合格</li> </ul>	<p>【職業意識の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続きインターンシップ、各企業見学等の事前指導を徹底</li> <li>就職希望者、進路希望者が「フェス」、冬の就職セミナー、社会人としての基礎教育講座に積極的に参加</li> <li>アルバイト就業事業の紹介</li> <li>継続した資格取得の奨励</li> </ul> <p>【進路指導の徹底】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>改訂した「進路の手引き」を活用し、進路LHRを行う。</li> <li>校内の進路行事には、保護者にも案内し、生徒と共に進路の検討機会を提供</li> <li>「企業・学校説明会」の呼びかけを限外にも広げ、5月からスタート(30回実施を目標)</li> <li>10人面接を複数体験が優先に実施し、試験までに確実に10人終了させる</li> <li>進学補習を計画的に実施</li> <li>就職が内定した生徒に対し、企業から課題をいただき取り組ませ、社会人としての意識を高揚</li> <li>2年生就職希望者は、3学期にキャリアアドバイザーとの面接を実施し、3年での進路決定への取り組みを円滑にスタート</li> <li>基礎力診断テストを含め外部模試の結果を把握し、教員フェードバック、効果的な指導を実施</li> <li>3年生就職希望者は、朝読書の時間を活用して一般常識問題やS・P1の勉強を試験まで実施</li> </ul>		
7 地 域 や 企 業 と の 連 携 強 化	<p>【人材育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業見学、インターンシップなどの各事業を予定通り実施</li> </ul> <p>【情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>H Pの更新も昨年より引き続き、増加傾向</li> <li>出前授業や中学校生来校入生など積極的な反応は良好</li> <li>学年連絡などを随時発行し、学校の見える化を図っている学年あり</li> </ul> <p>【地域との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>桜ヶ丘グリーンゾーンの清掃活動は荒天のため中止</li> <li>テグワランティは例年通り7月12日に実施</li> </ul> <p>【P T A活動の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各事業ごとにまたメールを発信し、参加者の増加を促した</li> <li>各事業の参加者はクラス単位の影響もあり、やや減少傾向</li> <li>一昨年から継続事業として、手話講習会(7月：17名参加)を実施</li> </ul>	<p>【人材育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業、地域企業から求められる能力を取得</li> <li>生徒自身が個性を活かせる企業へ就職</li> </ul> <p>【情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ももプロの体験を含めた地域・小・中学校等との交流と積極的な情報発信</li> </ul> <p>【地域との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の自主的にボランティア等、地域と連携した貢献活動への参加</li> </ul> <p>【P T A活動の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者、地域を中心とした本校の教育活動への理解の深化</li> <li>保護者、地域の方々から本校の生徒指導方針に向けた生徒の見守り</li> <li>継続事業を踏まえて、保護者などが参加しやすい新規事業の計画</li> </ul>	<p>【人材育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インターンシップなどの各事業ごとに継続指導を行い、生徒への進路意識を徹底</li> </ul> <p>【情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行事ごとにタイムリを教え、保護者への参加を促すH Pやまちみメールの継続活用</li> <li>各事業への出席、タイムリな記事H P等で情報発信</li> </ul> <p>【地域との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>春・秋地域説明会、ふるとまのまつり、地域文化祭などへの積極的な参加と、地域とのより一層の交流</li> <li>テグワランティ等の継続実施による地域貢献活動の充実</li> </ul> <p>【P T A活動の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事との連携を考慮し、継続できる部分は継続しながらP T A活動の拡大及び内容の充実</li> </ul>		
8 規 則 正 しい 行 動 の 取 組	<p>○整理・整頓が不十分で、資料を探すための時間や資料の作り直しなど、勤務時間の増加の一因となっている</p> <p>○各種行事等の業務内容が十分に引継がれていないかつ、他の業務担当と共有できていないために片手間に業務になっていることがある</p> <p>○部活動での大会成果を意図して、練習時間が長引き、勤務時間の増加につながっている</p> <p>○職員の10年度の平均時間外業務時間は目標とした29年度比10%削減を達成</p>	<p>○SSO実施により、業務場所や共有フォルダの整理・整備を行い、その位置を定めることで業務の効率化を実現する</p> <p>○業務内容の把握に当たり、QCストーリーに則して計画、見直し、次回に向けた修正を行い、業務内容の理解と実施のための時間を削減する</p> <p>○部活動における休養日、活動時間を定直し、時間外業務の削減以上の勤務者を確保する</p> <p>○職員の10年度の平均時間外業務時間は29年度比20%削減を達成する</p>	<p>○定期的な執務室の清掃の実施及び共有フォルダの使用ルールの設定</p> <p>○業務内容の把握に当たり、担当への要請または手帳書き作成し、業務終了後には修正を行い共有フォルダに保存する</p> <p>○顧問間の計画的な指導方針の実施</p> <p>○時間外業務時間を管理職が適宜職員へフィードバックすることで、時間外業務の削減を推進する</p>		

注) S S : 整理・整頓・清掃・清掃 あさひ : 挨拶・作法・人話巻紙 ハイバ-Q.U.アンケート : よりよい学校生活と進路づくりのためのアンケート フェアシステム : 学校の授業と並行して企業で学習するシステム テグワランティ : 学生が専門技術を生かした地域へのボランティア活動 AL : アライアラーニング QC (品質管理) ストーリー : 問題解決の手順